

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

令和元年 6 月

和歌山工業高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
 - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
 - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200 字以下を目安とすること。なお、「……場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

（法）学校教育法、（設）高等専門学校設置基準

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	和歌山工業高等専門学校
2. 所在地	和歌山県御坊市名田町野島77
3. 学科等の構成	準学士課程：知能機械工学科、電気情報工学科、生物応用化学科（物質工学科）、環境都市工学科 専攻科課程：メカトロニクス工学専攻、エコシステム工学専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：メカトロニクス工学専攻、エコシステム工学専攻） J A B E E 認定プログラム（専攻名：メカトロニクス工学専攻、エコシステム工学専攻） その他（なし）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：864人 教員数：専任教員61人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>和歌山工業高等専門学校（以下本校と言う）は実践的技術者養成のための高等教育機関として昭和39年（1964年）4月に国立高専の第3期校として開設された。設立当初の機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科から、昭和44年に土木工学科を設置し、4学科構成となった。その後、科学技術の進展に合わせて改組等を行い、知能機械工学科、電気情報工学科、生物応用化学科、環境都市工学科の現在の学科構成になった。また、平成14年4月に更に高度な専門的知識と技術を教授する専攻科（メカトロニクス工学専攻とエコシステム工学専攻）を設置した。</p> <p>教育理念として「本校は、5年間の一貫教育を通じて、エンジニアとしての素養を身につける基礎教育と、実践を重視した専門教育を効果的に行うことにより、工学を社会の繁栄と環境との調和に生かすための創造力と問題解決能力を身につけ、豊かな人間性と国際性を備えた人材の育成を目指します。とりわけ自然環境に恵まれた和歌山県中南部に位置する本校は、地域社会の特色を生かしつつ、地球環境に配慮した新技術の開発に貢献することにより、新たな課題に挑戦します。こうした環境と地域連携を考慮した教育・研究活動が、国際社会へもアピールできるよう努力を重ねます。」を掲げている。この理念の下に教育活動を進め、「人材養成」、「地域貢献」、「国際化」をキーワードに活動を行っている。</p> <p>人材養成では、アドミッション・ポリシーに沿って入学者を受け入れ、カリキュラム・ポリシーに沿った教育を実施し、ディプロマ・ポリシーに従って卒業を認定している。本校卒業生は、卒業後直ぐか、専攻科や大学に進んだ後かの違いがあるが、ほぼ全員が企業等の技術者となっている。このことは本校に入学する事が、将来の職業を決めることを意味しており、このことを社会に広く周知する必要がある。そのため、本校ではアドミッション・ポリシーとして広く社会に公表し、このポリシーに基づいた体験実習入試、学校長推薦入試、学力入試を実施している。さらに、毎年大阪府下および和歌山県下の中学校を訪問して本校ポリシーを説明し、本校の趣旨に沿った学生を集める努力を続けている。</p> <p>教育内容は5年間の技術者教育を考慮した課程を設定し、その中で取り扱う内容は、モデルコアカリキュラムの内容を網羅した上で、技術者として必要な事柄に重点を置いた教育を行っている。さらに、これらの教育を行う教員は61名中48名が博士号取得者であり、13名が企業経験を有する等、十分な能力と資質を備えている。また、設立間もない昭和44年からインターンシップを導入し、4学年学生ほぼ全員を夏期休暇中にインターンシップに参加させ、社会経験を通じて、勉学への動機付けや社会人としての素養を身につけられるように配慮している。卒業生に対する企業の評価は極めて高く、例年卒業生の約60%を占める就職希望者数の約20倍の求人がある。クラス担任、学科主任や進路対策委員会によるきめ細かなフォローアップとも相まって、卒業生の約40%を占める進学希望者を含む卒業生のほぼ全員が、毎年卒業までに進路を決定している。専攻科においても、より高度な専門的技術とコミュニケーション能力を身につけた修了生として企業や大学院等から高い評価を得ており、求人倍率は就職希望者の約80倍以上になっている。</p> <p>本校は全国有数の規模の学生寮を有しており、毎年本校学生の7割に相当する定員一杯の590名前後の学生が生活している。低学年に全寮制を敷き、共同生活の体験を義務づけることにより、技術者として必要な協調性等の涵養に資している。この大規模寮を、寮務主事を中心とする学寮委員会と学生課寮務係、および寮生で構成する指導寮生委員会と寮生会で運営している。学生寮では集団生活はもとより学生の自主性を引き出すボランティア活動や社会人としてのマ</p>	

ナー教育等、種々の施策を実行し、現在まで全国高専の模範的な寮として毎年のように他高専関係者の訪問を受けている。

国際性を備えた人材の育成を図る施策の一つとして、上海電機学院（中華人民共和国）と交流協定を締結し、2004年より年1回、10数名の学生が約2週間の短期留学を相互に行っている。さらに、インドネシアのスラバヤ工科大学等の3大学とも学術交流協定を締結し、学生や教員の交流を行っている。また、外国人留学生を本科3年生に受入れ（2019年5月現在9名）、日本人学生とともに卒業目指して勉学に励んでいる。

本校の位置する和歌山県は高等教育機関が少なく、県民の本校への期待も大きい。この期待に応えるべく産官学技術交流会を設立して地域産業との連携を図っている。平成27年度には文部科学省から「地（知）の拠点事業」に採択され、「わかやまを知る若手エンジニアを育成し地域の未来を切り拓くー「地」の「知」の拠点としての和歌山高専ー」に取組み、地域についての深い知識を持った人材の育成を推進している。地域共同テクノセンターやロボット教育センター等を中心に小中学生を対象とした公開講座や出前授業等を多数実施している。また、地域と共に「きのくにロボットフェスティバル」を毎年実施し、小中学生に夢を与える活動を続けている。図書館を地域に開放し、多数の地域住民が利用しており、地域の情報発信基地としての役割を果たしている。さらに、近い将来予想される東南海地震に対して津波発生時のハザードマップを作成し、地域住民への説明会を開催するなど、地元自治体と一体となった防災・減災活動を続けている。また、文部科学省の委託を受け、学校施設の防災力強化プロジェクト「ソフト・ハード一体となった学校防災」に取組み、地元の幼稚園・小学校・中学校と連携して防災ネットワーク体制を構築している。

II 目的

学校の目的

和歌山工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（平成18年法律第120号）の精神にのっとり、及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。（和歌山工業高等専門学校学則第1条）

準学士課程

知能機械工学科

幅広い産業における機器やシステムの設計、開発、研究、保守、操業等の業務において、創造的かつ主体的に取り組むための基礎技術や制御・知能化技術を含めた総合力を身につけ、日々進歩する科学技術を推進できる基本的学識と知的好奇心を備えた機械技術者の養成

電気情報工学科

私たちの豊かな生活を支え、社会、産業の発展に大きく寄与している電気・電子・情報・通信などの基礎技術を身につけ、日々進歩し続ける電気情報技術に柔軟に対応できる課題発見解決型の電気情報技術者の養成

生物応用化学科（物質工学科）

人々の生活を支える様々な物質について、化学および生物学に基づく基礎的理解と工学的センスを身につけ、ものづくりに誇りを持って地球環境保全の立場から人類に役立つ物質を実践的に創造できる化学・生物学技術者の養成

環境都市工学科

地震や津波に対する防災技術、地球温暖化問題に対する環境保全・自然との共生をはかる環境マネジメント技術、機能的で快適な街をつくる都市計画技術、橋梁など社会基盤の構造設計技術などを身につけ、グローバルデザイン能力に優れた創造的技術者の養成

（和歌山工業高等専門学校学則第7条の2）

専攻科課程

専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成するとともに、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを目的とする。

（和歌山工業高等専門学校学則第40条）

メカトロニクス工学専攻

機械工学、電気電子工学及び情報工学の知識を基礎に、持続可能な社会の形成に活かせる創造力、多面的に問題を発見し解決する能力、豊かな人間性と国際性を備え、メカトロニクスに関する研究開発能力に優れた技術者となりうる人材を養成する。

エコシステム工学専攻

応用化学、生物学、環境工学、土木工学の知識を基礎に、持続可能な社会の形成に活かせる創造力、多面的に問題を発見し解決する能力、豊かな人間性と国際性を備え、エコシステムに関する研究開発能力に優れた技術者となりうる人材を養成する。

（和歌山工業高等専門学校学則第42条の2）

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項A 研究活動の状況

評価の視点	
A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。	
観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
関係法令	(設)第2条第2項
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	◇定めていることがわかる資料 資料 A-1-1-(1)-01 「高専機構本部第4期中期目標」 資料 A-1-1-(1)-02 「高専機構本部第4期中期計画」
観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	
【留意点】	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。 ○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。 ○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。 	
関係法令	(設)第2条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料 資料 A-1-2-(1)-01 「地域共同テクノセンター規則」 資料 A-1-2-(1)-02 「知的財産評価委員会規則」 資料 A-1-2-(1)-03 「遺伝子組換え実験安全委員会規則」 資料 A-1-2-(1)-04 「人を対照とする研究倫理に関する規程」 資料 A-1-2-(1)-05 「人を対象とする研究倫理委員会規則」
(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料 資料 A-1-2-(2)-01 「知能機械工学科設備機器」 資料 A-1-2-(2)-02 「電気情報工学科設備機器」 資料 A-1-2-(2)-03 「生物応用化学科設備機器」 資料 A-1-2-(2)-04 「環境都市工学科設備機器」 資料 A-1-2-(2)-05 「その他設備機器」

<p>(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>(再掲) 資料 A-1-2-(1)-01 「地域共同テクノセンター規則」 (再掲) 資料 A-1-2-(1)-02 「知的財産評価委員会規則」 (再掲) 資料 A-1-2-(1)-03 「遺伝子組換え実験安全委員会規則」 (再掲) 資料 A-1-2-(1)-05 「人を対象とする研究倫理委員会規則」</p>
<p>(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。</p> <p>■行われている □行われていない</p>	<p>◇研究活動の実施状況がわかる資料</p> <p>資料 A-1-2-(4)-01 「和歌山高専平成 29 年度年報」</p>
<p>観点 A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。</p> <p>○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。</p> <p>■得られている □得られていない</p>	<p>◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料</p> <p>資料 A-1-3-(1)-01 「和歌山高専平成 29 年度年報（研究部分抜粋）」</p>
<p>観点 A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。</p> <p>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</p> <p>○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 観点 A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <p>資料 A-1-4-(1)-01 「自己点検・評価等に関する規則」 資料 A-1-4-(1)-02 「教育システム点検委員会規則」</p> <p>◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具</p>

	<p>体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p>
<p>A-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>和歌山高専は工学教育・研究を基盤にしたエンジニア育成のための教育研究機関であり、これまでは海洋や海事に関わる教育研究を組織的に展開することが無かったが、本校の海洋に関わる研究課題に取り組んでいる教員は、防災、安全、環境保全、水産、生物多様性、エネルギー資源等に関わる研究課題について個々に在籍することから、期せずして政府の海洋基本計画にマッチし、海洋に関わる課題解決への取り組みを推進する基盤が整っていた。</p> <p>そこで平成30年度より「海洋プロジェクト」として海洋研究・教育・地域貢献を本格的に推進、令和元年度には正式に「海洋研究ユニット」として組織的に発足し、積極的な活動を計画している。</p>	

<p>選択的評価事項A 目的の達成状況の判断</p>
<p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である</p> <p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である</p> <p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である</p>

選択的評価事項A

<p>優れた点</p>
<p>海に面する立地条件を生かして、他の工業高専にはない海洋プロジェクトを立ち上げ、学科を超えた教員による海洋研究・教育・地域貢献に取り組んでいる。さらに、本プロジェクトでは鳥羽商船高専と協定を締結し、連携を図っている。</p>
<p>改善を要する点</p>
<p>なし</p>

選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況

評価の視点	
B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。	
観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
【留意点】	
○ なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	◇定めていることがわかる資料 資料 B-1-1-(1)-01 「教育理念」 資料 B-1-1-(1)-02 「高専機構本部第4期中期目標」 資料 B-1-1-(1)-03 「高専機構本部第4期中期計画」
観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。	
【留意点】	
○ 実施体制について分析することは必須ではない。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 策定している <input type="checkbox"/> 策定していない	◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料 資料 B-1-2-(1)-01 「なるほど体験科学教室 スケジュールおよび注意事項」 資料 B-1-2-(1)-02 「出前授業について・一覧」 資料 B-1-2-(1)-03 「ロボット教育センター概要」
(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない	◇実施状況がわかる資料 資料 B-1-2-(2)-01 「平成30年度公開講座実施結果」 資料 B-1-2-(2)-02 「平成30年度出前授業実施結果」 資料 B-1-2-(2)-03 「きのくにロボットフェスティバル2018パンフレット」 資料 B-1-2-(2)-04 「文部科学省【学校施設の防災力強化プロジェクト】概要」
観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。	
【留意点】	
○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 認められる <input type="checkbox"/> 認められない	◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等） 資料 B-1-3-(1)-01 「参加者アンケート集計表一例（おもしろ体験科学教室 和歌山会場）」 資料 B-1-3-(1)-02 参加者アンケート集計表一例（おもしろ体験科学教室 田辺会場） 資料 B-1-3-(1)-03 「きのくにロボットフェスティバル 2018 実施報告書」 資料 B-1-3-(1)-04 「文部科学省【学校施設の防災力強化プロジェクト】平成 28 年度報告書」
観点 B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	
【留意点】 ○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。 ○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 観点 B-1-③ で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇改善の体制がわかる資料 資料 B-1-4-(1)-01 「参加者アンケート集計結果の送付メール」 資料 B-1-4-(1)-02 「きのくにロボフェス 2018 課題と対策」（再掲）資料 B-1-3-(1)-04 「文部科学省【学校施設の防災力強化プロジェクト】平成 28 年度報告書」 ◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。
B-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
①本校と和歌山県を始めとする県内各機関と連携し、青少年のものづくりに対する理解を深め、日本のものづくりと科学技術の発展を目指すため、「きのくにロボットフェスティバル」を開催しており、平成 30 年までに 12 回を実施している。フェスティバルは、小・中学校生対象の全日本小中学生ロボット選手権、高校生対象のきのくにロボットコンテスト、および「全国高専ロボコン」で優秀な成績を収めた招待チームのロボットや研究機関や企業等の最先端ロボットのデモンストレーションを総合的に実施するもので、本校はその運営の中核を担っている。 ②本校は防災に関する地域貢献を幅広く行っている。各学科の防災に関係する分野の研究を積極的に実施するとともに	

に、地域自治体等の要請に応じて講演会による情報提供や防災関係の協議会等へ参画するなどしている。また、避難所指定校として、避難所開設の手順検討や、災害時トイレ利用を考慮した廃水処理場の改修を実施し、災害時に地域に貢献できるような体制の検討を続けている。また、県内メディアと災害時の情報共有の連絡・連携を行うための協定締結を行った。

選択的評価事項B 目的の達成状況の判断

- 目的の達成状況が非常に優れている
- 目的の達成状況が良好である
- 目的の達成状況がおおむね良好である
- 目的の達成状況が不十分である

選択的評価事項B

優れた点

公開講座や出前授業等を、年間スケジュールを立てて計画的に実施し、小中学生を主な対象に組織的に活動を展開できている。東南海・南海地震による津波浸水被害予測の講演を地域に密着して実施するとともに、避難所開設に伴う運営体制を地域と連携して構築している。きのくにロボットフェスティバルでは、文部科学大臣賞や経済産業大臣賞などの表彰がある全国規模の大会「全日本小中学生ロボット選手権」を中核機関として運営し、全国規模で青少年の科学技術への興味関心を高めている。

改善を要する点

なし